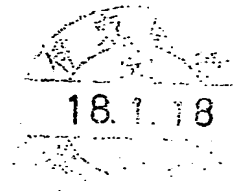


# 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）



代理人 伊東 忠彦  様  あて名 〒150-6032 日本国東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー32階
---

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）の送付の通知書

（法施行規則第57条）  
〔PCT規則71.1〕

出願人又は代理人 の書類記号 SS04005PCT—		重要な通知	
国際出願番号 PCT/J P 2004/017294	国際出願日 （日.月.年） 19. 11. 2004	優先日 （日.月.年） 25. 11. 2003	
出願人（氏名又は名称） 株式会社資生堂			
<p>1. 国際予備審査機関は、この国際出願に関して特許性に関する国際予備報告及び付属書類が作成されている場合には、それらをこの送付書とともに送付することを、出願人に通知する。</p> <p>2. 国際予備報告及び付属書類が作成されている場合には、すべての選択官庁に通知するために、それらの写しを国際事務局に送付する。</p> <p>3. 選択官庁から要求があったときは、国際事務局は国際予備報告（付属書類を除く）の英語の翻訳文を作成し、それをその選択官庁に送付する。</p> <p>4. 注 意</p> <p>出願人は、各選択官庁に対し優先日から30月以内に（官庁によってはもっと遅く）所定の手続（翻訳文の提出及び国内手数料の支払い）をしなければならない（PCT39条（1））（様式PCT/IB/301とともに国際事務局から送付された注を参照）。</p> <p>国際出願の翻訳文が選択官庁に提出された場合には、その翻訳文は、特許性に関する国際予備報告の付属書類の翻訳文を含まなければならない。この翻訳文を作成し、関係する選択官庁に直接送付するのは出願人の責任である。</p> <p>選択官庁が適用する期間及び要件の詳細については、PCT出願人の手引き第Ⅱ巻を参照すること。</p> <p>出願人はPCT第33条(5)に注意する。すなわち、PCT第33条(2)から(4)までに規定する新規性、進歩性及び産業上利用可能性の基準は国際予備審査にのみ用いるものであり、締約国は、請求の範囲に記載されている発明が自国において特許を受けることができる発明であるかどうかを決定するに当たっては、追加の又は異なる基準を適用することができる（PCT第27条(5)も併せて参照）。そのような追加の基準は、例えば、実施可能要件や特許請求の範囲の明確性及び裏付け要件を、特許要件から免除することを含む。</p>			

名称及びあて名 日本国特許庁（IPEA/J P） 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員 特 許 庁 長 官 電話番号 03-3581-1101 内線 3457	4 J	9 0 4 2
--	---	-----	---------

様式PCT/IPEA/416（2004年1月）

添付用紙の注意書きを参照

## 注 意

### 1. 文献の写しの請求について

国際予備審査報告に記載された文献であって国際調査報告に記載されていない文献の複写

特許庁にこれらの引用文献の写しを請求することもできますが、独立行政法人工業所有権情報・研修館（特許庁庁舎2階）で公報類の閲覧・複写および公報以外の文献複写等の取り扱いをしています。

〔担当及び照会先〕

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目4番3号（特許庁庁舎2階）

独立行政法人工業所有権情報・研修館

【公報類】 閲覧部 TEL 03-3581-1101 内線3811～2

【公報以外】 資料部 TEL 03-3581-1101 内線3831～3

また、（財）日本特許情報機構でも取り扱いをしています。

これらの引用文献の複写を請求する場合は下記の点に注意してください。

〔申込方法〕

（1）特許（実用新案・意匠）公報については、下記の点を明記してください。

○特許・実用新案及び意匠の種類

○出願公告又は出願公開の年次及び番号（又は特許番号、登録番号）

○必要部数

（2）公報以外の文献の場合は、下記の点に注意してください。

○国際予備審査報告の写しを添付してください（返却します）。

〔申込み及び照会先〕

〒135-0016 東京都江東区東陽4-1-7 佐藤ビル

財団法人 日本特許情報機構 情報処理部業務課

TEL 03-3508-2313

注）特許庁に対して文献の写しの請求をすることができる期間は、国際出願日から7年です。

2. 各選択官庁に対し、国際出願の写し（既に国際事務局から送達されている場合は除く）及びその所定の翻訳文を提出し、国内手数料を支払うことが必要となります。その期限については各国ごとに異なりますので注意してください。（条約第22条、第39条及び第64条(2)(a)(i)参照）

## 請求の範囲

## 〔1〕（補正後）

生分解性樹脂及び置換又は無置換のアルキル基を有する置換シリル基が層状ポリケイ酸に結合した層状有機ケイ酸を含むことを特徴とする樹脂組成物。

〔2〕 前記置換シリル基は、アミノ基、エポキシエチル基、エポキシエチルオキシ基、ビニル基、イソプロペニル基、1-フェニルビニル基、4-ビニルフェニル基、イソシアネート基、及び水酸基からなる群より選択される置換基を有することを特徴とする請求項1記載の樹脂組成物。

〔3〕 前記置換又は無置換のアルキル基が、置換のアルキル基である場合であって、前記置換のアルキル基は、前記アルキル基の末端に結合する、アミノ基、エポキシエチル基、エポキシエチルオキシ基、ビニル基、イソプロペニル基、1-フェニルビニル基、4-ビニルフェニル基、イソシアネート基、及び水酸基からなる群より選択される置換基を有することを特徴とする請求項1記載の樹脂組成物。

〔4〕 前記アルキル基に含まれる炭素原子の数は、3個以上18個以下であることを特徴とする請求項1記載の樹脂組成物。

〔5〕 前記置換又は無置換のアルキル基が、置換の第一のアルキル基である場合であって、

前記置換の第一のアルキル基は、前記第一のアルキル基の末端に結合する、アミド結合、エステル結合、N-オキシメチレンアミノ基、及びN, N'-ジ（オキシメチレン）アミノ基からなる群より選択される原子団を有し、

前記原子団は、置換又は無置換の第二のアルキル基を有することを特徴とする請求項1記載の樹脂組成物。

〔6〕 前記置換又は無置換の第二のアルキル基が、置換の第二のアルキル基である場合であって、

前記置換の第二のアルキル基は、前記第二のアルキル基の末端に結合する、アミノ基、エポキシエチル基、エポキシエチルオキシ基、ビニル基、イソプロペニル基、1-フェニルビニル基、4-ビニルフェニル基、イソシアネート基、及び水酸基からなる群より選択される置換基を有することを特徴とする請求項5記載の樹脂組成物。

〔7〕 前記第一のアルキル基に含まれる炭素原子の数及び前記第二のアルキル基に含

まれる炭素原子の数の合計は、3個以上18個以下であることを特徴とする請求項5記載の樹脂組成物。

〔8〕（補正後）

前記生分解性樹脂は、ポリエステル系樹脂であることを特徴とする請求項1記載の樹脂組成物。

〔9〕（補正後）

前記ポリエステル系樹脂は、ポリ乳酸であることを特徴とする請求項8記載の樹脂組成物。

〔10〕請求項1記載の樹脂組成物を用いて成形されたことを特徴とする樹脂成形体。